

exposure levels. Allergy 1998; 53(48 Suppl):64-70.

13. Wieslander G, Norback D, Nordstrom K, et al.
Nasal and ocular symptoms, tear film stability
and biomarkers in nasal lavage, in relation to
building-dampness and building design in
hospitals. Int Arch Occup Environ Health 1999;
72: 451-61.

G. 研究発表

論文発表

- 1) Saijo Y, Sata F, Mizuno S, Yamaguchi K, Sunagawa H, Kishi R: Indoor airborne mold spores in newly built dwellings. Environmental Health and Preventive Medicine, 2005 10 (3) : 157-161, 2005
- 2) Saijo Y, Kishi R, Sata F, Katakura Y, Urashima Y, Hatakeyama A, Kobayashi S, ORJin K, Kurahashi N, Kondo T, Gong Y, Umemura T: Symptoms in relation to chemicals and dampness in newly built dwellings. Int Arch Occup Environ Health, 77(7):461-470, 2004
- 3) 岸玲子、西條泰明、佐田文宏：第2部・第1章・Ⅲ「シックハウス症候群」の自覚症状と関連する要因－北海道での新築一般住宅を対象とした実態調査結果について』、『室内空気質と健康影響～解説：シックハウス症候群～（室内空気質健康影響研究会（編））』、（株）ぎょうせい、東京、2004
- 4) 岸玲子、西條泰明：第2章・Ⅱ「トルエン吸入曝露による人への健康影響」『室内空気質と健康影響～解説：シックハウス症候群～（室内空気質健康影響研究会（編））』、（株）ぎょうせい、東京、2004

学会発表

- 1) 西條泰明、佐田文宏、岸玲子：「新築住宅における室内空気真菌汚染の実態と自覚症状の関連」、第63回日本公衆衛生学会、島根（2004.10.27-29）
- 2) 西條泰明、佐田文宏、岸玲子、山口敬治、砂川紘之、水野信太郎：「新築住宅における室内空気真菌汚染の実態と自覚症状の関連」、第56回北海道公衆衛生学会、札幌（2004.11.11-12）

厚生労働科学研究補助金（健康科学総合研究事業）

分担研究報告書

Table 2-1 全国調査での自覚症状有訴率（SHS 症状 1）

項目	症状が「いつもある」で、その症状は「家を離るとよくなる」						
	6県全体 N=2206	北海道 N=577	福島 N=426	名古屋 N=278	大阪 N=318	岡山 N=337	北九州 N=360
◆目の刺激症状							
1. 目がチカチカする、まぶしい、疲れやすい、熱くなる、乾く、涙が出る	7 (0.3)	4 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.6)	1 (0.3)	0 (0.0)
◆目の症状(その他)							
2. 目が疲れやすい	2 (0.1)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. 視力がおちた	3 (0.1)	3 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆鼻の症状							
4. 鼻がムズムズする、鼻づまり、鼻水	16 (0.7)	6 (1.0)	4 (0.9)	2 (0.7)	3 (0.9)	1 (0.3)	0 (0.0)
◆においの症状							
5. 臭いに敏感、臭いの感じたがかった	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)
◆のどの刺激症状							
6. のどがヒリヒリする、痛い、かゆい、声がかれる	5 (0.2)	4 (0.7)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆のどの症状(その他)							
7. のどがつかえる	2 (0.1)	2 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
8. のどが乾く	3 (0.1)	2 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)
◆胸の症状							
9. 吸込みやすい	8 (0.3)	3 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.4)	2 (0.6)	2 (0.6)	0 (0.0)
10. ヒューヒュー、ゼーゼー、いう	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)
◆胸の症状(その他)							
11. タンがからむ	3 (0.1)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	0 (0.0)
12. 息がしにくい	3 (0.1)	2 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆皮膚症状							
13. 顔や手・耳・体の皮膚がかゆい、チクチクする、赤い、はれる、乾く	10 (0.4)	4 (0.7)	0 (0.0)	2 (0.7)	2 (0.6)	2 (0.6)	0 (0.0)
◆皮膚症状(その他)							
14. しつしんがある	6 (0.3)	2 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.4)	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)
◆精神・神経							
15. 頭痛がする、頭が重たい	4 (0.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	2 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
16. めまい	2 (0.1)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
17. 疲れやすい	7 (0.3)	2 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.3)	0 (0.0)	1 (0.3)
18. 体がだるい	3 (0.1)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.3)
19. 集中力がない	2 (0.1)	2 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20. 吐き気がある	4 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.3)
21. 物忘れがひどい	3 (0.1)	2 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆心理状態							
22. 眠れない、夜中に目がさめ	4 (0.2)	2 (0.3)	1 (0.2)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
23. イライラする	6 (0.3)	2 (0.3)	1 (0.2)	1 (0.4)	1 (0.3)	1 (0.3)	0 (0.0)
24. 気分が沈んでゆうつである	4 (0.2)	2 (0.3)	1 (0.2)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
25. 何事にもおっくうである	6 (0.3)	3 (0.5)	1 (0.2)	1 (0.4)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)
◆心理状態							
26. 泣しく泣きたい気持ちになる	2 (0.1)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
27. よく不安になる	3 (0.1)	1 (0.2)	2 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
28. 将来に希望が持てない	3 (0.1)	2 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
29. 孤独でさびしい気分になる	2 (0.1)	2 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆筋肉・関節症状							
30. 筋肉や関節がいたい、手足がしびれる、手足がふるえる、脱力感がある	3 (0.1)	3 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆消化器症状							
31. 吐き気がある、腹痛がある、下痢する、便秘する、胸やけがする、味がわからいく、口内炎がある	3 (0.1)	3 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆泌尿・生殖器症状							
32. 生理痛、月経過多、陰部がかゆい	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
◆自律神経症状							
33. 微熱がある、どうきがする、手足がぼてる、手足が冷える、汗をかきやすい	1 (0.0)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

厚生労働科学研究補助金（健康科学総合研究事業）

分担研究報告書

風呂場でのタオルの乾きにさ	あり 27 (7.5) 335 (92.5) *	2.06 (1.30- 3.25) 6 (10.5) 51 (89.5) 2.42 (0.94- 6.19) 6 (8.6) 64 (91.4) ** 4.69 (1.50- 14.40) 2 (4.5) 42 (95.5) 0.87 (0.19- 4.01) 6 (10.0) 54 (90.0) 2.67 (0.03- 7.65) 4 (7.1) 52 (92.9) 1.70 (0.53- 5.47) 3 (4.0) 72 (96.0) 1.63 (0.41- 6.44)
なし なし	72 (3.3) 1835 (96.2) 24 (4.6) 483 (95.4) 7 (2.0) 350 (98.0) 12 (5.2) 218 (94.8) 10 (4.0) 240 (96.0) 12 (4.3) 265 (95.7) 7 (2.5) 273 (97.5)	
水漏れ水道からの水漏れや雨漏り	あり 11 (10.2) 97 (89.8) ** 2.70 (1.40- 5.21) 3 (8.1) 34 (91.9) 1.67 (0.48- 5.78) 2 (10.0) 18 (90.0) 4.01 (0.83- 19.45) 1 (9.1) 10 (90.9) 1.93 (0.23- 16.25) 1 (9.1) 10 (90.9) 1.93 (0.22- 16.11) 2 (15.4) 11 (94.6) 3.99 (0.81- 19.73) 2 (12.5) 14 (87.5) † 6.00 (1.17- 30.80)	
なし なし	88 (4.0) 2092 (96.0) 27 (5.0) 511 (95.0) 11 (2.7) 397 (97.3) 13 (4.9) 251 (95.1) 15 (4.9) 290 (95.1) 14 (4.4) 307 (95.6) 14 (2.3) 336 (97.7)	
ペット	飼っている 78 (4.7) 568 (95.3) 1.12 (0.72- 1.76) 11 (6.4) 161 (93.6) 1.38 (0.64- 2.97) 5 (4.7) 102 (95.3) 1.91 (0.61- 5.98) 5 (6.8) 68 (93.2) 1.55 (0.51- 4.67) 5 (5.7) 83 (94.3) 1.19 (0.40- 3.52) 0 (0.0) 81 (100) * - 2 (2.6) 74 (97.4) 0.93 (0.19- 4.45)	
飼っていない	71 (4.2) 1620 (95.8) 19 (4.7) 384 (95.3) 8 (2.5) 312 (97.5) 9 (4.5) 193 (95.5) 11 (4.2) 217 (95.2) 16 (6.3) 240 (93.8) 8 (2.8) 274 (97.2)	
室内の換気	注意している 89 (4.5) 1873 (95.5) 1.48 (0.76- 2.87) 26 (5.5) 443 (94.5) 1.50 (0.51- 4.38) 12 (3.4) 342 (96.6) 2.25 (0.30- 18.39) 14 (5.5) 242 (94.5) - 13 (4.7) 265 (95.3) ## 0.56 (0.15- 2.05) 15 (5.0) 288 (95.0) 1.67 (0.21- 13.04) 9 (3.0) 293 (97.0) 1 (1.8) 55 (98.2) 1.66 (0.21- 13.60)	
注意していない	10 (3.1) 311 (96.9) 4 (3.8) 102 (96.2) 1 (1.5) 67 (98.5) 0 (0.0) 21 (100) 3 (8.1) 34 (91.9) 1 (3.0) 32 (97.0) 1 (1.25) 7 (87.5)	
「床(部屋の中) 置いている 置いていない	30 (5.0) 573 (95.0) 1.19 (0.75- 1.88) 5 (4.5) 105 (95.5) 0.83 (0.31- 2.22) 5 (3.7) 131 (96.3) 1.34 (0.45- 4.12) - - 7 (9.3) 68 (90.7) 2.60 (0.39- 7.23) 7 (7.7) 84 (92.3) 2.11 (0.76- 5.85) 6 (3.1) 185 (96.9) 0.23 (0.02- 2.15)	
家のにおい 気にならない	52 (4.2) 1178 (95.8) 25 (5.4) 435 (94.6) 8 (2.8) 281 (97.2) 8 (2.8) 281 (97.2) - - 9 (3.8) 227 (96.2) 9 (3.8) 228 (96.2) 1 (1.25) 7 (87.5)	
家の空気が悪い、 汚れている感覚を感じる、 感じない、	29 (13.1) 193 (36.9) ** 4.23 (2.68- 6.69) 9 (16.7) 45 (83.3) ** 4.77 (2.06- 11.03) 1 (2.4) 41 (97.6) 0.82 (0.10- 6.54) 4 (16.0) * 4.23 (1.22- 14.45) 7 (17.1) 34 (32.9) ** 5.99 (2.10- 17.13) 7 (20.6) 27 (79.4) ** 8.21 (2.83- 23.78) 1 (3.8) 25 (96.2) 1.35 (0.16- 11.06) -	
家の家具のにおい 気にならない	69 (3.4) 1944 (96.6) 21 (4.0) 501 (96.0) 11 (2.9) 371 (97.1) 10 (4.3) 222 (95.7) 9 (3.3) 262 (96.7) 9 (3.1) 285 (96.9) 9 (2.9) 303 (97.1)	
寝る習慣 吸う なし、以前	21 (14.1) 128 (35.9) ** 4.24 (2.53- 7.08) 6 (15.0) 34 (85.0) * 3.77 (1.44- 9.93) 2 (6.5) 28 (93.5) 2.41 (0.51- 11.41) 3 (23.1) 10 (76.9) * 6.36 (1.53- 26.42) 4 (17.4) 19 (82.6) * 4.86 (1.43- 16.52) 6 (23.1) 26 (76.9) ** 8.76 (2.89- 25.55) 0 (0.0) 16 (100) 10 (3.1) 315 (96.9) -	

厚生労働科学研究補助金（健康科学総合研究事業）
分担研究報告書

Table 5 Dampness の指標と S H S 2 症状の関連

	6県合計 N=2298	北海道 N=577	福島 N=428	名古屋 N=278	大阪 N=318	岡山 N=337	北九州 N=360
	OR (95%CI)	OR (95%CI)	OR (95%CI)	OR (95%CI)	OR (95%CI)	OR (95%CI)	OR (95%CI)
家族数 (人)	1.00 (0.85- 1.17)	0.92 (0.64- 1.30)	1.48 (0.98- 2.25) †	0.94 (0.67- 1.39)	0.64 (0.38- 1.07) †	0.93 (0.62- 1.40)	1.20 (0.73- 1.98)
築年数 (年)	1.14 (0.99- 1.30) †	1.24 (0.96- 1.60)	0.92 (0.61- 1.37)	1.15 (0.76- 1.75)	1.11 (0.71- 1.72)	1.35 (0.91- 2.01)	1.03 (0.68- 1.58)
結露発生 (あり vs なし)	1.54 (0.97- 2.45) †	2.42 (1.03- 5.69) *	1.84 (0.46- 7.30)	1.33 (0.39- 4.56)	1.67 (0.53- 5.23)	1.83 (0.46- 7.32)	0.64 (0.15- 2.82)
カビ発生 (あり vs なし)	1.21 (0.77- 1.90)	0.95 (0.40- 2.23)	3.00 (0.73- 12.29)	1.22 (0.37- 4.05)	1.50 (0.49- 4.66)	1.05 (0.32- 3.44)	2.13 (0.47- 9.56)
カビのにおい (あり vs なし)	2.00 (1.13- 3.54) *	2.64 (0.88- 7.89) †	1.07 (0.20- 5.82)	1.69 (0.32- 9.02)	2.65 (0.63- 11.07)	2.63 (0.69- 10.06)	0.77 (0.08- 7.62)
ぬれタオルの乾きにくさ (あり vs なし)	1.53 (0.94- 2.47) †	1.60 (0.58- 4.42)	3.37 (1.02- 11.16) *	0.60 (0.11- 3.14)	2.30 (0.76- 6.96)	1.22 (0.35- 4.22)	1.51 (0.34- 6.74)
水漏れ (あり vs なし)	1.93 (0.98- 3.82) †	1.29 (0.36- 4.69)	2.33 (0.44- 12.34)	1.69 (0.19- 14.93)	1.62 (0.17- 15.18)	1.95 (0.34- 11.27)	5.75 (1.03- 32.13) *

†: P<0.1. *: p<0.05, **: p<0.01

Table 6. Dampness の指標の数と S H S 2 症状の関連

	6県合計 N=2298	北海道 N=577	福島 N=428	名古屋 N=278	大阪 N=318	岡山 N=337	北九州 N=360
	OR (95%CI)	OR (95%CI)	OR (95%CI)				
Dampness (P for trend)	**	**	**	**	**	**	
1つあり	1.80 (0.96- 3.37) 0	1.26 (0.45- 3.47)	1.79 (0.16- 20.34)	5.87 (1.18- 29.24) *	2.17 (0.40- 11.81)	0.87 (0.12- 6.49)	>10 ⁵ (0.00- ∞)
2つあり	2.24 (1.19- 4.25) *	1.85 (0.62- 5.57)	5.41 (0.60- 48.77)	3.35 (0.58- 19.31)	2.49 (0.39- 15.89)	2.96 (0.57- 15.40)	>10 ⁵ (0.00- ∞)
3つあり	4.41 (2.25- 8.64) **	5.05 (1.61- 15.8) **	9.25 (0.90- 95.68) †	0.00 (0.00- ∞)	14.88 (2.63- 84.13) **	2.58 (0.40- 16.67)	>10 ⁵ (0.00- ∞)
4~5	5.40 (2.11- 13.9) **	6.11 (1.11- 33.6) *	23.32 (1.73- 315) *	6.46 (0.52- 80.75)	0.00 (0.00- ∞)	6.80 (0.84- 54.81)	0.71 (0.00- ∞)

築年数、家族数で調整

†: P<0.1. *: p<0.05, **: p<0.01

シックハウス症候群に関する全国実態調査研究 —6 地域の住宅環境測定結果のまとめ

主任研究者 岸 玲子 北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野 教授
分担研究者 西條 泰明 北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野 助手

研究要旨

解析対象となったのは、築7年以内の戸建住宅で北海道は104軒（居住者：343人）、福島65軒（238人）、名古屋57軒（191人）、大阪78軒（283人）、岡山74軒（260人）、北九州50軒（164人）の計425軒（1479人）である。ロジスティック回帰分析において、シックハウス症状には湿度環境や一部の真菌(Rhodotorula属)、さらに個人の要因として、ストレスを感じることや、家の空気が悪いと感じる低いことが有意に関連していた。また、アレルギー症状にも湿度環境が関連していた。さらに、地域別解析において、北海道ではFormaldehyde濃度が、名古屋ではAspergillus属が有意に関連していた。症状別解析では、眼症状がRhodotorula属に、鼻症状が湿度環境とダニアレルゲンに、皮膚症状もRhodotorula属に、喉・呼吸症状に湿度環境、精神神経症状にストレスを感じることが有意に関連していた。シックハウス症候群には、化学物質対策のみならず、湿度環境、ダニアレルゲン、個人の感じ方やストレスなどの要因に十分留意する必要があると考えられた。

【分担研究者】

田中 正敏 福島学院大学
柴田 英治 愛知医科大学医学部衛生学
森本 兼曩 大阪大学大学院医学系研究科
吉良 尚平 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
吉村 健清 福岡県保健環境研究所
瀧川 智子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

【研究協力者】

小西 香苗 北海道大学大学院医学研究科
梅村 朋広 福井大学医学部
水野信太郎 北海道浅井学園大学
小田 志保 北海道大学
鈴木 彰 北海道大学
長谷川智香 北海道大学
播村 一平 北海道大学
増田 純子 北海道大学
湯山 英子 北海道大学
田島 通子 札幌市在住
中川原由花 札幌市在住
川西 景子 札幌市在住
川島 員登 札幌市保健所
上田 正幸 札幌市保健所
長野 彩子 札幌市保健所
加藤 一夫 福島県衛生研究所
福島 哲仁 福島県立医科大学医学部

田中かづ子 福島県立医科大学医学部
中山 邦夫 大阪大学大学院医学系研究科
圓藤 陽子 東京労災病院
原 勝己 岡山県保健福祉部生活衛生課
和田 洋 岡山保健所衛生課
南 大亮 岡山市保健所衛生課
平子 実 倉敷市保健所生活衛生課
関 明彦 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
片岡 洋行 就実大学薬学部 教授
高橋 清 独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター 院長
岡田 千春 独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター
西出 忠司 (財)淳風会健康管理センター
堀家 徳士 (株)サンキヨウ・エンピックス
坂野 紀子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
山崎 雪恵 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
王 炳玲 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
坂野 紀子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
神原 咲子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
力 寿雄 福岡県保健環境研究所
岩本 真二 福岡県保健環境研究所
久保 達彦 産業医科大学臨床疫学
井手 玲子 産業医科大学臨床疫学

A. 研究目的

室内空気環境の重要性が注目され、特にわが国ではシックハウス・シックスクール症候群と注目を集めている。しかし、十分な疫学調査がなされておらず、日本全体で十分な実態調査は行われていない。いわゆる化学物質過敏症との相違や、明確な診断基準もないままにこれまで国民の心配が広がってきていたのが現状である。

シックハウス症候群は本質的には 1970 年代より欧米で注目を集めたシックビルディング症候群^①の延長と考え、加えて日本の住宅建築の問題・気候・などを加味して原因の解明研究を進め、対策を明らかにすべきである。

具体的には、日本の各地域、北海道、東北、名古屋、大阪、岡山、北九州の 6 地域で、共通プロトコールで、地域ごとの特徴と日本全体の実態、およびそれにもとづく対策の方向を明らかにすることを目的としている。初年度は質問紙による調査を行った。本研究では、この調査住宅の一部を対象に、自覚症状等および住宅環境の調査を行い、6 地域のシックハウス症状に関連する環境要因を明らかにすることを目的としている。

B. 研究方法

B—1. 調査対象

平成 15 年度の調査研究対象となった住宅のうち、環境測定と質問票調査に承諾を得て、解析対象となつたのは、築 7 年以内の戸建住宅で北海道は 104 軒（居住者：343 人）、福島 65 軒（238 人）、名古屋 57 軒（191 人）、大阪 78 軒（283 人）、岡山 74 軒（260 人）、北九州 50 軒（164 人）の計 425 軒（1479 人）である。

B—2. 質問票調査

住居に関する調査：世帯主もしくはそれに順ずる人に記入を依頼した。リフォーム、芳香剤・防虫剤使用、結露・カビ発生の有無、カビ臭さ、タオルの乾きにくさ、水漏れ経験の有無、ペット、喫煙、居間の諸状況、環境測定期間中の化学物質の使用、の 15 項目について質問した。

健康に関する調査：対象住宅に居住する全ての人を対象に記入を依頼した。乳幼児等については、親権者に代理記入を依頼した。質問項目は、家・家具のにおい、室内の空気、喫煙、在宅・睡眠時間等、運動、飲酒、朝食、栄養、就労時間、ストレス、職業と内容、危険物・化学物質の取り扱い、粉塵曝露、アレルギー疾患

患、過去 3 ヶ月以内の自覚症状（その症状が住宅環境によるものかどうか）、家を離れるとよくなる症状、の 19 項目について質問した。

B—3. 住宅環境測定

対象住宅の居間で環境測定を行った。アルデヒド類・揮発性有機化合物（VOC）測定用はパッシブサンプラーを用いて 24 時間行い、同時に温度・湿度も測定した。ダニアレルゲン測定用は、専用紙パックを装着したハンドクリーナーにより 1 m³あたり 2 分間、床を吸引し集塵した。真菌用は DG-18 寒天培地を装着した SAS サンプラー（AINEX BIO-SAS）により、100 L の空気を吸引した。真菌数は 1 m³当たりの真菌数（CFU/m³）で定量化した。

C. D. 研究結果と考察

対象住宅の属性は表 1 に示す通りである。これらの住宅に居住する対象者は表 2 より、30 歳～40 歳代の比較的低年齢の子供がいる家庭が主と考えられた。

自覚症状について、何らかの症状が 1 つ以上「いつもある」で更に「自宅の環境に影響していると思う」と回答したものを「SHS1」とし、何らかの症状が 1 つ以上「いつもある」または「ときどきある」とし更に「自宅の環境に影響していると思う」と回答したものを「SHS2」とした。SHS1 は全体では 8.0%—北海道 9.9%、福島 7.1%、名古屋軒 9.4%、大阪 3.9%、岡山 6.5%、北九州 13.4%、SHS2 は全体では 18.1%—北海道 23.9%、福島 17.2%、名古屋軒 17.8%、大阪 10.6%、岡山 15.4%、北九州 23.8% であった（表 3 a）。この数値は 1 年目の全国質問紙票調査結果 2.0%（SHS1）～4.3%（SHS2）に比べ高い数値であるが^①、これはの症状の有無をもとに 2 年限の調査対象住宅を選択したことに起因するものと思われた。

症状の内訳は SHS1 が、①「鼻水・鼻づまり・鼻がムズムズする」3.45%、②「目がかゆい・あつい・チクチクする」1.15%、③「頭や耳がかさつく・かゆい」1.01%、④「せきがでる」0.95%、⑤「手が乾燥する・かゆい・赤くなる」「イライラする」各 0.74%、SHS2 が①「鼻水・鼻づまり・鼻がムズムズする」7.78%、②「声がかすれる・喉が乾燥する」5.07%、③「せきがでる」3.99%、④「目がかゆい・あつい・チクチクする」3.45%、⑤「頭や耳がかさつく・かゆい」2.37% であった（表 3 b）。対象者のアレルギー疾患は表 4 に示した。

SHS 症状と住居の調査票項目との間で有意な関連を示したものは、SHS 1 の場合、カビ、カビ臭、居間の床の材質、居間のベンジンの使用・保管、居間のシンナーの使用・保管であった。SHS 2 ではカビ、カビ臭、タオルの乾きにくさ、水漏れ、居間のベンジンの使用・保管、居間のシンナーの使用・保管、居間の塗料の使用・保管であった（表 5 a）。SHS 症状と個人の調査票項目との間で有意な関連を示したものは、SHS 1 の場合、家の臭いが気になること、家の空気が悪い（汚れている）と感じること、睡眠時間 6 時間未満、睡眠が不十分、ストレスが多いであった。SHS 2 では家の臭いが気になること、家の空気が悪い（汚れている）と感じること、家の家具の臭いが気になること、睡眠時間 6 時間未満、睡眠が不十分、ストレスが多い、業務（学校）で危険物や化学物質の取り扱いがないことであった（表 5 b）。

アレルギー症状を 1 つ以上有するか否かで症状の有無を分け調査票項目との関連を見た場合、リフォームあり、カビの有無、水漏れ、シンナーやベンジンの使用・保管などがアレルギー症状と有意に関連していた。タバコはオッズ比を下げているが、アレルギーがある人はタバコを避けるための可能性がある（表 6）。

室内塵 1 g 当たりのダニアレルゲン (Der 1=Der p1+Der f1) 量は福島、岡山、北九州、名古屋、北海道の順であった（表 7）。SHS1 では全国、大阪、岡山で Der 1 が有意に多かったが、SHS2 では差を認めなかっただ。また、アレルギーについては岡山でのみ Der 1 が有意に多かった（表 8）。表には示さないが、症状ごとの検討では鼻の症状有りで Der 1 が有意に多かった。

総真菌数は福島、岡山、北海道、北九州、大阪、名古屋の順であった（表 9）。症状との関連では総 CFU (コロニー数合計) は全国では関連を認めなかっただが、大阪において SHS 1 で有意に多かった。有意に多かった。また、各地とも Cladosporium 属が最も多い真菌属であった。また、曝露の多い真菌属では Cladosporium 属が大阪において SHS1 と有意に関連していたが、北海道では逆に症状がないほうが有意に多い結果であった（表 10）。

アルデヒド類・VOC 類の気中濃度を測定した結果を表 11 に示す。指針値を超えた化学物質（表 11）は、Formaldehyde (15 件、3.5%)、Acetaldehyde (52 件、12.2%)、p-Dichlorobenzene (24 件、5.6%) ならびに total VOC:TVOC (34 件、8.0%) であった。これらの化学物質のうち、Formaldehyde および

Acetaldehyde は調査対象住宅の 95%以上検出されたが、p-Dichlorobenzene は未検出 (ND) の住宅が全体の約 40% を占めていた。p-Dichlorobenzene は防虫剤に主に含まれる成分であるため、測定対象の居間付近での防虫剤使用が検出率を左右している可能性がある。そのほか、Toluene、Ethylbenzen、Styrene、Xylene では指針値を超えた住宅はなく、全体に化学物質の濃度は低めであった。そのなかで、Formaldehyde は北海道で、TVOC は福島で曝露濃度が高かった。化学物質濃度とシックハウス症状の検討では、SHS 1 で有意に高かったのが、Formaldehyde、1,2-Dichloroethane、n-Decane であったのに対し、SHS 2 では、アルデヒド類が 9 種と VOC が 7 種類であった（表 12）。しかし、ホルムアルデヒド以外は曝露濃度が低く、多重検定の影響もあると考えられる。アレルギー症状との関連はでも、VOC 4 種類が関連していたがこれも曝露濃度が低く多重検定の影響もあると考えられる（表 13）。

さらに、ロジスティック回帰分析による多変量解析を行った。①化学物質：すべての化学物質は対数変換後、それを、性、年齢で調整し SHS1 もしくは 2 に有意に関連する物質を選択した。それらを、投入し、ステップワイズ変数減法（性、年齢で調整）により、SHS1 と有意に関連したのは、1,2-Dichloropropane、n-Nonane、SHS2 とは Benzaldehyde、1,2-Dichloropropane、Chlorodibromomethane、Tetrachloroethylene、n-Nonane であった。②真菌：総 CFU と各属の CFU（性、年齢で調整）を投入し、SHS 1 では、Rhodotorula 属が有意に関連し、SHS 2 では、Candida 属と Rhodotorula 属が有意に、Aspergillus 属と Cladosporium 属が関連する傾向を認めた。③ダニアレルゲン：対数変換した Der 1（性、年齢で調整）を投入し、SHS 1 では Der 1 が関連する傾向を認めた。④築年数、湿度環境指標悪化数（0～5 段階）、家の臭いが気になる、空気が悪いと思う、睡眠時間（6 時間未満）、ストレス（性、年齢で調整）を投入し、SHS 1 では、湿度環境、空気が悪いと思う、ストレスが有意に関連し、築年数、睡眠時間（6 時間未満）は関連する傾向を認め、SHS 2 では、湿度環境、空気が悪いと思う、ストレスが有意に関連し、家の臭いが気になる、睡眠時間が関連する傾向を認めた。⑥統合解析：性、年齢、地区年数、湿度環境指標、真菌総、Der 1、総 CFU、Formaldehyde、TVOC を基本項目として投入し、さらに、以上から $p < 0.1$ で関連する

傾向があったもの投入した多変量解析を行った。SHS1には、女性 OR2.10 (1.37-3.22)、湿度環境指標（指標が1つ増える場合）OR1.33 (1.10-1.60)、ストレス OR2.35 (1.52-3.62)、1,2-Dichloropropane (濃度が10倍になった場合) OR16.51 (2.58-16.4)、Rhodotorula 属 (CFU が10増えたとき) OR1.06 (1.00-1.12)が有意に関連していた。SHS2では、女性 OR1.55 (1.16-2.09)、湿度環境指標（指標が1つ増える場合）OR1.26 (1.11-1.44)、空気が悪い OR2.27 (1.38-3.76)、ストレス OR1.46 (1.06-2.00)、Benzaldehyde (濃度が10倍になった場合) OR1.44 (1.09-1.90)、1,2-Dichloropropane (濃度が10倍になった場合) OR3.06 (1.34-6.99)、Rhodotorula 属 (CFU が10増えたとき) OR1.08 (1.81-1.13)であった（表14）。以上のように、多変量解析では、女性であること、湿度環境、空気が悪い、Benzaldehyde、1,2-Dichloropropane、Rhodotorula 属が有意に関連していた。しかし、Benzaldehyde、1,2-Dichloropropane は曝露濃度が低く（それぞれ max 40.2, 2.8 μg/m³）、これまでに、関連するとの報告はなく、偶然の可能性もある。Rhodotorula 属はアレルゲンとなりうることが報告されている。また、Formaldehyde、TVOC、総 CFU、Der1 などは関連せず、湿度環境や、個人のストレス、個人の空気環境の感じ方が強く影響すると考えられた。この集団では、化学物質や住環境に関心が高く、環境が比較的よい集団が集まつたためかもしれない。その他、サンプルサイズが小さくなる問題もあるが、地域別の解析も同様に行なった。湿度環境は北海道、福島、北九州で有意に関連するかその傾向を認めた。北海道では、Formaldehyde がシックハウス症状に有意に関連していた。北海道では、Formaldehyde の曝露濃度が最も高く、その影響がある可能性がある。名古屋では Aspergillus 属が有意に関連していた（表15）。さらに症状毎の検討では、眼症状が Rhodotorula 属に、鼻症状が湿度環境とダニアレルゲンに、皮膚症状も Rhodotorula 属に喉・呼吸症状に湿度環境、精神神経症状にストレスが有意に関連していた（表16）。また、アレルギー症状は湿度環境に有意に関連していた（表17）。

さらに、湿度環境のと主要化学物質 (Formaldehyde, Acetaldehyde, Toluene, TVOC) 濃度、真菌総 CFU、ダニアレルゲンの関連について検討した。水漏れありがなしに比べて有意にアセトアルデヒド濃度が高かったがその他は差がなかった。真菌総 CFU にも

関連がなかった。カビの発生、タオルの乾きにくさによりダニアレルゲンが有意に高くなった。湿度環境数との関連はいずれも認めなかつた。今回は、湿度環境と居間の気中真菌や TVOC との関連をみとめなかつたが、湿度環境がシックハウス症候群に影響する機序として、1. 高湿度は結露をおこし真菌の生育を生じやすくする。微生物自体が VOC のような化学物質を產生したり²⁾, endotoxins や (1-3)-beta-D-gulucan を產生する³⁻⁵⁾。2. 本研究でも関連を認めたが、高湿度はハウスダストを増やす⁶⁾。さらに、3. 構造的な dampness は構造物の化学的変性から 2-ethyl-1-hexanol from alkaline degradation of di-(2-ethylhexyl) phthalate (DEHP) in poly-vinyl chloride materials のような化学物質を產生する⁷⁾、等が考えられる。

化学物質濃度については、VOC については、我々の 2001 年における北海道の築 5 年以内の住宅⁸⁾よりも、全体に低い濃度であった。2001 年はサンプリングが 1 週間であることも影響しているが、さらに、近年、化学物質濃度への関心の高まりから、化学物質濃度が低下し、そのためシックハウス症状との関連が、今回の一般住宅では、はつきりしないのかもしれない。

真菌についても、総 CFU は関連を認めなかつた。今回の、一点の測定では限界があって、経時的な評価が必要かもしれない。また、経時的な影響も加味される湿度環境の指標が総合的にすぐれていて、有効に活用すべきとも考えられる。

ダニアレルゲンについては、特に鼻の症状で関連をみとめ、呼吸器系の症状にもあわせて留意すべきであると考えられる⁹⁾。

E. 結論

全国 6 地域の調査から、シックハウス症状には湿度環境や一部の真菌、さらに個人の要因として、ストレスを感じることや、家の空気が悪いと感じる低いことが有意に関連していた。また、アレルギー症状にも湿度環境が関連していた。さらに、北海道では Formaldehyde 濃度が、名古屋では Aspergillus 属が有意に関連していた。眼症状が Rhodotorula 属に、鼻症状が湿度環境とダニアレルゲンに、皮膚症状も Rhodotorula 属に、喉・呼吸症状に湿度環境、精神神経症状にストレスを感じることが有意に関連していた。シックハウス症候群には、化学物質対策のみならず、湿度環境、ダニアレルゲン、個人の感じ方やストレス

などの要因に十分留意する必要があると考えられた。

F. 参考文献

- Patty's Industrial Hygiene and Toxicology 5Th edition. John Wiley & Sons, 2000.
- Wessen B, Schoeps KO: Microbial volatile organic compounds--what substances can be found in sick buildings? Analyst 1996; 121: 1203-5.
- Andersson MA, Nikulin M, Koljalg U, et al.: Bacteria, molds, and toxins in water-damaged building materials. Appl Environ Microbiol 1997; 63: 387-93.
- Rylander R: Indoor air-related effects and airborne (1-3)-beta-D-glucan. Environ Health Perspect. 1999; 107 Suppl 3: 501-3
- Toxicology of 1- 3-beta-Glucans: Glucans As A Marker For Fungal Exposure. Shih-Houng Young SH and, Castranova V. Crc Pr I Llc, 2005.
- Munir AK. Mite sensitization in the Scandinavian countries and factors influencing exposure levels. Allergy 1998; 53(48 Suppl):64-70
- Wieslander G, Norback D, Nordstrom K, et al. Nasal and ocular symptoms, tear film stability and biomarkers in nasal lavage, in relation to building-dampness and building design in hospitals. Int Arch Occup Environ Health 1999; 72: 451-61.
- Saijo Y, Kishi R, Sata F, Katakura Y, Urashima Y, Hatakeyama A, Kobayashi S, Jin K, Kurahashi N, Kondo T, Gong YY, Umemura T. Symptoms in relation to chemicals and dampness in newly built dwellings. Int Arch Occup Environ Health. 2004 ;77:461-70.
- Platts-Mills TA, Thomas WR, Aalberse RC, Vervloet D, Champman MD. Dust mite allergens and asthma: report of a second international workshop. J Allergy Clin Immunol. 1992;89:1046-60.

G. 健康危険情報

なし

H. 研究発表

論文発表

- Saijo Y, Sata F, Mizuno S, Yamaguchi K, Sunagawa H, Kishi R: Indoor airborne mold spores in newly built dwellings. Environmental Health and Preventive Medicine, 10(3):157-161, 2005
- Ma M, Umemura T, Mori Y, Gong Y, Saijo Y, Sata F, Kawai T, Kishi Influence of genetic polymorphisms of styrene-metabolizing enzymes and smoking habits on levels of urinary metabolites after occupational exposure to styrene. Toxicol Lett. 160(1):84-91, 2005
- 岸玲子、西條泰明：「特集シックハウス症候群—シックハウス症候群の疫学」、『アレルギーの臨床』、25(7):547-553,2005

学会発表

- 西條泰明、森ゆうこ、梅村朋弘、竹田誠、佐田文宏、岸玲子：「全国規模の疫学研究によるシックハウスの実態と原因の解明 第1報 アルデヒド・VOC」、第 64 回日本公衆衛生学会、札幌 (2005.9.14-16)
- 竹田誠、西條泰明、森ゆうこ、梅村朋弘、佐田文宏、岸玲子：「全国規模の疫学研究によるシックハウスの実態と原因の解明 第2報 ダニアレルゲン・真菌」、第 64 回日本公衆衛生学会、札幌 (2005.9.14-16)
- 岸玲子、西條泰明、竹田誠、田中正敏、柴田英治、森本兼彌、中山邦夫、瀧川智子、吉村健清、力寿雄：「全国 6 地域の一般住宅におけるシックハウス症候群の実態と原因の解明 第1報 新築住宅の有訴率と地域差」第 76 回日本衛生学会総会、山口 (2006.3.25-28)
- 岸玲子、西條泰明、竹田誠、田中正敏、柴田英治、森本兼彌、中山邦夫、瀧川智子、吉村健清、力寿雄：「全国 6 地域の一般住宅におけるシックハウス症候群の実態と原因の解明 第2報 新築住宅の化学物質環境と症状」第 76 回日本衛生学会総会、山口 (2006.3.25-2)

最近の自覚症状	症状が「いつもある」で、その症状は「家をはなれるとよくななる」(SHS2)								
	6県全体 度数 (%)	北海道 度数 (%)	N=343 福島 度数 (%)	N=238 名古屋 度数 (%)	N=191 大阪 度数 (%)	N=283 岡山 度数 (%)	N=260 度数 (%)	N=260 北九州 度数 (%)	N=164 度数 (%)
とても疲れる	21 (1.42)	5 (1.46)	3 (1.26)	4 (2.09)	2 (0.71)	5 (1.92)	2 (1.22)	2 (1.22)	
頭が重い	11 (0.74)	2 (0.58)	1 (0.42)	3 (1.57)	2 (0.71)	1 (0.38)	1 (0.38)	2 (1.22)	
頭が痛い	9 (0.61)	4 (1.17)	0 (0.00)	2 (1.05)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	3 (1.83)	
吐き気やめまいがする	7 (0.47)	2 (0.58)	0 (0.00)	2 (1.05)	1 (0.35)	0 (0.00)	0 (0.00)	2 (1.22)	
物事に集中できない	10 (0.68)	4 (1.17)	2 (0.84)	3 (1.57)	0 (0.00)	1 (0.38)	0 (0.00)	0 (0.00)	
目ががちい・あつい・チクチクする	51 (3.45)	13 (3.79)	10 (4.20)	3 (1.57)	3 (1.06)	7 (2.69)	15 (9.15)	15 (9.15)	
鼻水・鼻つまり・鼻がムズムズする	115 (7.78)	35 (10.20)	17 (7.14)	13 (6.81)	10 (3.53)	17 (6.54)	23 (14.02)	23 (14.02)	
声がかずれる、喉が乾燥する	75 (5.07)	34 (9.91)	13 (5.46)	7 (3.66)	7 (2.47)	7 (2.69)	7 (4.27)	7 (4.27)	
せきができる	59 (3.99)	23 (6.71)	6 (2.52)	11 (5.76)	3 (1.06)	8 (3.08)	8 (3.08)	8 (4.88)	
顔が乾燥したり赤くなる	29 (1.96)	13 (3.79)	5 (2.10)	6 (3.14)	2 (0.71)	1 (0.38)	2 (1.22)	2 (1.22)	
頭や耳がかさつく・かゆい	35 (2.37)	14 (4.08)	8 (3.36)	2 (1.05)	4 (1.41)	4 (1.54)	3 (1.83)	3 (1.83)	
手が乾燥する・かゆい・赤くなる	27 (1.83)	13 (3.79)	4 (1.68)	1 (0.52)	3 (1.06)	2 (0.77)	4 (2.44)	4 (2.44)	
しつらがでる	34 (2.30)	8 (2.33)	6 (2.52)	2 (1.05)	6 (2.12)	6 (2.31)	6 (3.66)	6 (3.66)	
眠れない、夜中に眼がさめる	17 (1.15)	4 (1.17)	4 (1.68)	3 (1.57)	1 (0.35)	3 (1.15)	2 (1.22)	2 (1.22)	
イライラする	19 (1.28)	4 (1.17)	5 (2.10)	1 (0.52)	3 (1.06)	5 (1.92)	1 (0.61)	1 (0.61)	
憂鬱である、さびしい、不安になる	12 (0.81)	4 (1.17)	2 (0.84)	2 (1.05)	3 (1.06)	1 (0.38)	0 (0.00)	0 (0.00)	
なにごともおづくさである	9 (0.61)	3 (0.87)	3 (1.26)	2 (1.05)	1 (0.35)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	
将来に希望が持てない	6 (0.41)	2 (0.58)	1 (0.42)	2 (1.05)	1 (0.35)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	
手足がぼてる	7 (0.47)	3 (0.87)	0 (0.00)	1 (0.52)	1 (0.35)	1 (0.38)	1 (0.61)	1 (0.61)	
手足が冷える	17 (1.15)	5 (1.46)	3 (1.26)	3 (1.57)	2 (0.71)	1 (0.38)	3 (1.83)	3 (1.83)	
汗をかきやすい	20 (1.35)	7 (2.04)	0 (0.00)	5 (2.62)	3 (1.06)	2 (0.77)	3 (1.83)	3 (1.83)	
筋肉や頭筋が痛い	6 (0.41)	3 (0.87)	0 (0.00)	2 (1.05)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.61)	1 (0.61)	
手足がしびれる、ふるえる	3 (0.20)	3 (0.87)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	
脱力感がある	6 (0.41)	2 (0.58)	1 (0.42)	2 (1.05)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.61)	1 (0.61)	
腹痛がある	6 (0.41)	3 (0.87)	1 (0.42)	1 (0.52)	0 (0.00)	1 (0.38)	0 (0.00)	0 (0.00)	
下痢をする、便祕をする	8 (0.54)	4 (1.17)	2 (0.84)	0 (0.00)	1 (0.35)	0 (0.00)	1 (0.61)	1 (0.61)	
胸やけがする	6 (0.41)	5 (1.46)	0 (0.00)	1 (0.52)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	
口内炎がある	5 (0.34)	2 (0.58)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	3 (1.15)	0 (0.00)	0 (0.00)	
においに敏感、においの感じ方がかわった	27 (1.83)	7 (2.04)	4 (1.68)	4 (2.09)	6 (2.12)	3 (1.15)	3 (1.83)	3 (1.83)	
ヒューヒュー、ゼーベーいう	17 (1.15)	7 (2.04)	0 (0.00)	3 (1.57)	4 (1.35)	4 (1.54)	2 (1.22)	2 (1.22)	
息がしにくく	12 (0.81)	4 (1.17)	0 (0.00)	5 (2.62)	0 (0.00)	1 (0.38)	2 (1.22)	2 (1.22)	